



ザンビア カフェ国立公園にて

【15】 2023年10月25日(木) 宮崎日日新聞

山元香代子さん(49) 宮崎市

国際交流賞

アフリカで無償診療



山元香代子さんは、宮崎市出身の49歳。アフリカ大陸のザンビア共和国で、無償で医療支援活動を行っている。彼女は、宮崎日日新聞の国際交流賞を受賞した。山元さんは、2018年からザンビアに渡り、現地の人々の健康を支援している。その活動が、宮崎日日新聞の国際交流賞を受賞した。山元さんは、宮崎日日新聞の国際交流賞を受賞した。山元さんは、宮崎日日新聞の国際交流賞を受賞した。

10月21日
宮崎日日新聞
の記事から

NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第48号 (H27.10.25)

事務局：宮崎市生目台西4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 平成27年も10月下旬となり、各地では紅葉の時期ですね。宮崎でも朝夕寒さを感じるようになりましたが、東北の紅葉は綺麗ですね。

10月は臓器移植普及推進月間でもあります。シンボルカラーはグリーン。宮崎県庁本館も白鷺城に負けないようにグリーンにライトアップされました。

今回は、山元香代子先生からのザンビア報告や宮崎日日新聞社賞受賞の様子、さらには大成建設様の社報として取材を受け作成された文書の後半を掲載します。

経過報告 (27年10月以降)

- ・巡回診療の状況は山元香代子先生からの報告に詳しく掲載されています。ザンビアは現在夏の季節で暑く、事務所のある首都ルサカではまだまだ断水や計画停電が続いているようです。
- ・この10月も19日、25日と続けて臨時理事会を開催しました。内容は、山元先生の報告にもあるようにザンビアの物価が急騰しているため、現地スタッフの給与をあげることに、もう一つは、当初の活動計画に示していた「安全な飲料水確保のため、さらにルアノ、ムワンタヤ、ニャンカンガ地区に深井戸を各2基ずつ建設する(なお寄附の状況により理事会で建設基数等の変更を行う)」ものを、寄附の状況や現地コミュニティの協力状況(ニャンカンガ地区は見送り)を踏まえ、ルアノ地区に追加2基を含め5基、ムワンタヤ地区に追加1基を含め3基の計8基とすることを諮り、ともに承認されたのでお伝えします。
- ・前号でお伝えしました9月26日UMKテレビ宮崎18時からの番組、「夕時」で、山元香代子先生のザンビアでの活動、ORMZの活動について放送され、その後多くの方から「放送見たよ」と声をかけられ、また宮崎県内の方々から新たなご寄付がありました。ありがたいことと感謝申し上げます。
- ・10月23日、宮崎日日新聞社賞受賞式があり、日高が代理で出席しました。後ほど報告します。

活動報告 (ザンビアより山元香代子先生から)

みなさま、お元気でお過ごしでしょうか。すっかりごぶさたしています。私は10月6日にザンビアに戻りました。香港からヨハネスブルグ行の飛行機が台風のためキャンセルになり、どうなることかと心配しましたが、翌日シンガポール経由の飛行機に乗ることができました。

ザンビアはとても暑いです。櫻井さんから報告がありましたように、計画停電が続いています。新聞

の広報のように、1日8時間から13時間の停電と、断水が時々あります。夜電気もつかず、水も出ない時はさすがに困ってしまいますが、ソーラーで充電したランタンと汲み水で何とかしのいでいます。雨が降ってダムに水が溜まれば解決するという人もいますが、この状況は数年続くと悲観的な人も多いです。また、6月末は1ドル7.36クワチャでしたが、現在1ドル11.50クワチャの両替レートです。そのためか日用品が10~20%値上がりしています。ソーラーランタンを追加購入しようとスーパーに行きましたが5月247クワチャだったものが548クワチャになっていました。南アフリカからの輸入品だからでしょうか。驚きました。このような状況で、本日18日は政府が全国民に呼びかけて、国の経済状況が良くなるようにお祈りと断食の日になっています。そのためか車の通行も少なく静かです。

私が不在の間も、特に問題はなく巡回診療は継続されていました。会計を含めた事務仕事をしていただいた山本さんと櫻井さんのおかげです。心からお礼申し上げます。

診察した患者総数もさほど多くなく、マラリア患者はとてま少なくなったようです。10月7日ムワントヤ地区、患者総数102名、マラリアは34名の検査で陽性者0でした。10月14日ルアノ地区の診療では、患者総数64名と少なく、マラリアは34名の検査で2名のみ陽性(5.9%)でした。乾燥しているせいか咳を訴える患者や結膜炎が多かったです。ルアノはとてま暑く、診療中もサウナに入っているような状態でした。患者数が少なかったため、16時前にはルアノを発つことができ、チサンバの町で飲んだ冷たいミリングがとてまおいしかったです。



診療に行く途中にあるシェレニの新しく掘られた井戸をみんなが使っていました(写真)。ルアノの奥に掘られた井戸も近いうちに見に行く予定です。ルアノの2基の井戸から水質検査で大腸菌がわずかに検出されましたが、2回目の検査では全く問題ありませんでした。ただ最初に掘った井戸の排水口に大きな水たまりができ、マラリア蚊の繁殖地になりそうでした。以前注意して改善されていたのですが、再び水がたまり、厳しく注意しました。改善がみられなければチェーンをかけて鍵をする予定です。

1台のランドクルーザーが頻回に修理が必要な状況で、買い替える予定です。ただ昔ながらのコンピューター制御でないランクルはなかなか見つかりません。2008年製の車がようやく見つかりましたが、なんと500,000クワチャ、43,478ドルととてま高く、今週再度値段を交渉する予定です。

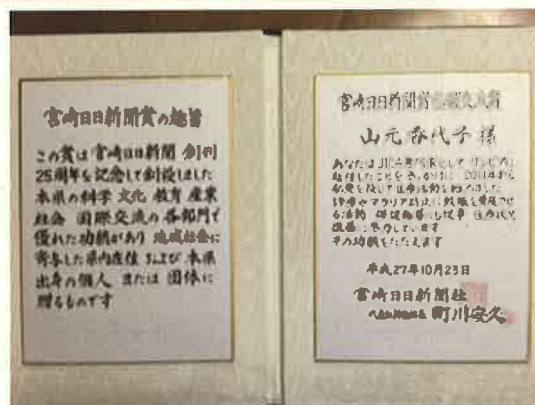
2年延長の労働ビザもようやく手に入り、2016年も診療するための医師登録料780クワチャ(68ドル)も支払いました。これは毎年第4半期に支払うことになっています。いろいろなことありますが、元気で仕事をしています。どうぞみなさまもお元気で過ごして下さい。

第51回宮日新聞社賞国際交流賞受賞しました(日高代理出席、カメラマン吉野真澄様)

10月23日午後11時から、宮日会館11階宮日ホールにて授賞式が催され、山元香代子先生の代理で出席してきました。今回は3個人、4団体が表彰され、その一人として国際交流賞を受賞しました。

今回の受賞者ではバイオ医薬品製造装置の開発者や子宮癌体験者や家族の方々による検診の啓発団体など健康関連の受賞者が多くおられました。なお国際交流賞は第26回から増設され今回27番目の受賞とのことでした。

皆さん永年の努力を重ねてこられた方々ばかりで、まだ



活動機関の短い我々がいただいて良いのか申し訳ない気持ちもありましたが、贈呈式の後、特別にザンビアからの山元先生のビデオメッセージや、現地での活動状況のビデオが流され、さらに式典後、新聞社の方々から、「本当に素晴らしい活動をされている方ですね」と声をかけられ、活動を認めていただいていることに感謝の気持ちを持ちました。

今回山元香代子先生の代理で出席しましたが、さらに山元香代子先生のザンビアでの活動を日本から支えていきたいと感じました。

もちろん今回の受賞も多くの皆様のご支援のおかげです。重ねて心から感謝申し上げます。



特別掲載 大成建設社内報『たいせい』2015年秋号 Vol1440 文・麻生泰子様

◎**本当の豊かさは心の中にある。ザンビアでの医療活動で見つけた幸せに生きる道** 山元 香代子 氏
懸命に生きる人たちが、病気や貧困で苦しむことのない世界に――

日本のへき地などで地域医療に従事したのち、WHOやJICAでのアジア・アフリカ支援を経て、2011年より、ザンビア共和国で巡回診療を始めた山元香代子医師。

1年のうち半年間を日本の病院で働き、その収入により現地の医療活動が行われています。

途上国での医療活動に挑戦し続ける、山元さんの思いを伺いました。(後半です)

・ザンビアで知った幸せに生きる道

へき地などでの地域医療と研究生活を国内で15年間続けたのち、私はWHOの医務官になりました。日本では公衆衛生や栄養の向上で感染症はずいぶん減りましたが、途上国ではマラリアやデング熱などで多くの人々が命を落としています。それを予防するため、カンボジア、ラオス、ベトナムなどアジア各国の保健省に小児保健の政策提案を行ってきました。やりがいはありましたが、現地の実情が正確に伝わってこないジレンマもあり、もっと現地に近いところで仕事をしたいと思うようになりました。そこで、NGOやJICA専門家として、アフリカの国々の保健衛生の改善に関わる仕事に就きました。しかし、現地で知ったのは、援助を一部の人たちが独占し、本当に困っている人に行きわたっていない現状でした。職業意識の低い医療者も少なからずおり、患者さんの容態が急変しても全員出払っていたり、患者さんが亡くなっても家族の悲しみに寄り添うこともない場面にも遭遇しました。スキルを教えるだけでは足りない。もっと患者さんを思いやれるあたたかみのある診療所のモデルをつくりたい――そんなとき、共にザンビアで医療活動をしようと呼びかけてくれる人がいて、巡回診療を始めることを決意したのです。

現地の医師免許を取得し、資材や車を調達し、スタッフを集めました。最初はあらゆる面で苦労しました。ザンビアでは何事もスムーズにいきません。スタッフが出勤してこない、銀行や役所でも何日も通い詰まないと物事が進まないことは日常茶飯事。生活環境も、蛇口をひねれば水が出る日はありがたく、電気が点けば今晚はご飯がつけるとホッとするほど。

でも、大変なことが多い分、一つでも物事がうまくいけば、躍り出したくなるほどうれしいのです。巡回先に着くまで大変でも、バナナ一本出てくると、それだけで元気が湧いてくる。小さな親切や物事の前進に、心から感謝したくなる。やがて分かったのは、国や習慣が違って、自分が誠実に働いていれば、手を差し伸べてくれる人が現れるということです。最初はスタッフの確保に頭を悩ませましたが、巡回診療を理解し、一緒に頑張ってくれる人が残ってくれました。現在、準医師と助産師、コーディネーター、運転手と5人で活動していますが、よく働いてくれる最高のスタッフです。

巡回先では、地域の方が無償でコミュニティヘルスワーカー（健康アドバイザー）としてサポートしてくれます。貧しいはずの彼らがなぜそんなに働いてくれるのか、日本から来た医学生が聞いたことがあります。すると「香代子と一緒に、いい仕事をしている。それが自分の誇りだ」と言ってくれたそうです。私はそんな彼らにいつも支えられています。

私たちの活動は湖面に石を投げるような、あてのないごく小さなことかもしれません。いつまで続けられるか分かりませんが、ザンビアの医療を変えることはとてもできません。でも、一人でも命を救うことができ、その人がこの村で元気に生きてくれば、それだけでも私はやった甲斐があると思うのです。



* 昨年は、巡回診療に加えて、井戸掘りの資金や、草葺きだった診療施設を新築した際、屋根やドア、セメントなどの建材を提供した。写真はルアノ地区の井戸掘りの様子と、ムワンタヤ地区の住民の手作りレンガでできた倉庫兼診療施設。

最近活動に賛同してくれる方々の寄付で、巡回診療に加え、小学校の近くを含め7つの村に8基の井戸を掘ることもできました。ルアノには読み書き計算ができない人が多いのですが、学校に行けばきれいな水が飲めるからと、小学校に通う子がこれまでより増えました。学校へ通える子どもが増えるのは何よりうれしいことです。

本当の豊かさは心の中にある——私のアフリカでの活動を応援してくれた亡き父の言葉です。迷ったり、くじけそうになったとき、その言葉を思い出します。懸命に生きている人たちのために医師として働くこと。それが私にとっての幸せに生きる道でもあるのです。

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・ 認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会（事業年度は1月から12月）では、賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附のご協力をお願いしています。
- ・ 入金を確認しました際には、日高からその旨メール（又は郵便）を差し上げます。また当法人は今年1月28日に認定NPO法人となり、この日以降ご寄付（賛助会費含む）いただいた際には、後日、税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp）までご連絡ください。

★ 郵ちょ銀行からの振替

口座記号番号 01720-9-126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★ 他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名： NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

（注：以前ヲ→オでないとweb送金ができないとのことでしたが、現在はヲでOKです）

以上

今後ともどうぞご支援のほどよろしく申し上げます